

興福寺創建期の研究

小林 裕子 著

(早稲田大学文学学術院講師)

刊行のことば

興福寺は、和銅三年（七一〇）に藤原不比等によって創建されたと伝えられ、現在まで千三百年間、その法灯を守り続けてきた。しかしながら、今われわれの目の前に在る興福寺は、不比等の時代とはまったく様相を異にしている。

奈良時代の興福寺は、平城京を見下ろす外京の高台に、中金堂、東金堂、西金堂の三金堂と、五重塔といった巨大木造建築が薨を連ねる大規模な本格的仏教伽藍であったが、度重なる火災によって当時の建物は残っていないばかりか、明治初年の廃仏毀釈の影響によって大幅な寺地の縮小を余儀なくされた。また、建物と同じく仏像も殆ど失われてしまった。わずかに伝わる旧西金堂に安置されていた乾漆像や法具が往時を想像する一助となつてはいるが、南都の諸寺に比較すると遺品は圧倒的に少ない。そのためか意外にも、奈良時代の興福寺がいかなる構想にもとづき、どのような造営過程を経て形成されたのかについてはあまりよく知られていない。しかも、不比等によって平城京に造営される以前、興福寺には山階や厩坂に前身寺院が存在したというが、山階寺や厩坂寺についても文献資料がその存在を伝えるのみで、実態は現在もわかっていないのである。

このように興福寺の創建事情および平城京における造営過程には不明な点が多いが、『続日本紀』の天平七年（七三五）五月二十四日条によると、興福寺は大安寺・薬師寺・元興寺といった国家官寺と肩を並べてその名を連ねている。不比等によって藤原氏の私寺として創建された興福寺は、平城遷都後二十五年経った時に国家官寺と同等の扱いを受けていたのである。その理由について従来の研究では、権力者不比等の創建であったことや藤原氏の朝廷への影響力に求めてきたが、藤原一門にも低迷の時代があった。そして藤原一門低迷の時代に、ちょうど東金堂や五重塔の時期が重なっていたのである。興福寺創建期の実態は、こうした藤原氏の事情をふまえたうえで理解されなければならないであろう。

本書は、興福寺の前身寺院に関する伝承を再検討することから出発し、平城京に不比等が造営した興福寺とはいかなる寺院であったのか明らかにすることを最終目的とし、文献、建築、仏像の各面から美術史観点をもって考察を進めたものである。

定価 二一、六〇〇円（本体価格 二一、〇〇〇円＋税）

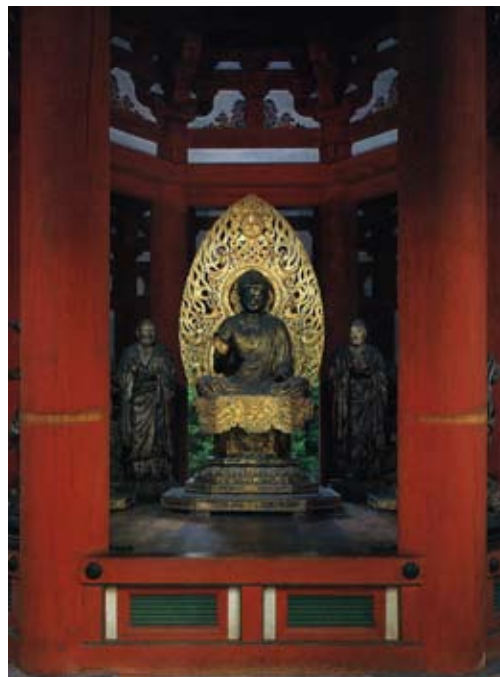
■ A5判・上製函入・本文 二三八頁

ISBN978-4-8055-0639-4 C3071



興福寺中金堂発掘調査区全景（北西より）

度重なる罹災によって、奈良時代の威容のほとんどを失ってしまった、南都七大寺伽藍の名刹である興福寺がいかなる思想背景でその大伽藍を形成していったかを、文献、発掘成果、建築、現存作例といった多角的な視点によって明らかにし、多くの先行研究をふまえ、最新の成果を導入して、南都興福寺研究に新たな問題を提起する。



北門堂内陣

目次

- 第一章 興福寺の前身寺院
 - 第一節 山階寺と厩坂寺に関する従来の研究
 - 第二節 山階寺と厩坂寺の比定地
 - 第三節 山階寺と厩坂寺の寺号
- 第二章 興福寺の草創を伝える史料
 - 第一節 「山階流記」の成立年代とその内容
 - 第二節 「旧記」の成立年代とその内容
 - 第三節 「宝字記」の成立年代とその内容
- 第三章 中枢伽藍の造営
 - 第一節 文献からみた興福寺の創建時期
 - 第二節 近年の発掘調査結果の検討
 - 第三節 中枢伽藍造営の意義と造営集団
 - 第四節 中金堂の本尊
- 第四章 回廊外堂塔の造営
 - 第一節 北門堂の造営
 - 第二節 東金堂の造営
 - 第三節 五重塔の造営
 - 第四節 西金堂の造営
 - 第五節 回廊外堂塔の造営計画と造興福寺仏殿司の設置
- 第五章 北門堂と中金堂の弥勒像
 - 第一節 北門堂弥勒像の像容
 - 第二節 中金堂弥勒像の像容
 - 第三節 ふたつの弥勒像造像の意義
- 第六章 五重塔造営計画と塔基初層安置の四仏について
 - 第一節 五重塔塔基初層南面の安置仏
 - 第二節 四方四仏と四方浄土について
 - 第三節 塔基四方四仏安置を構想した時期
 - 第四節 塔基初層安置仏の構想をもたらした人物
- 第七章 西金堂釈迦集会像
 - 第一節 十大弟子像と八部衆像
 - 第二節 造仏所作物帳からみた西金堂造仏所
 - 第三節 釈迦集会像の所依経典
 - 第四節 釈迦集会像の制作目的
- 第八章 官寺化への道程
 - 第一節 藤原不比等の興福寺造営プラン
 - 第二節 造興福寺仏殿司設置の意義
 - 第三節 興福寺の官寺化

【著者略歴】

小林 裕子（こばやし ゆうこ）

早稲田大学大学院芸術学（美術史）専攻博士課程修了。博士（文学）。

現在、早稲田大学・女子美術大学講師、早稲田大学奈良美術研究所客員研究員。専門は仏教美術史。

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7

TEL 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取り扱いは